



梅花新聞【香里】
第51号

題字 管長 南澤道人 禅師 世
発行 者 服部 秀 宗 務 庁
発行 所 曹洞宗 伝道部 詠道課
企画編集

お誓い

- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

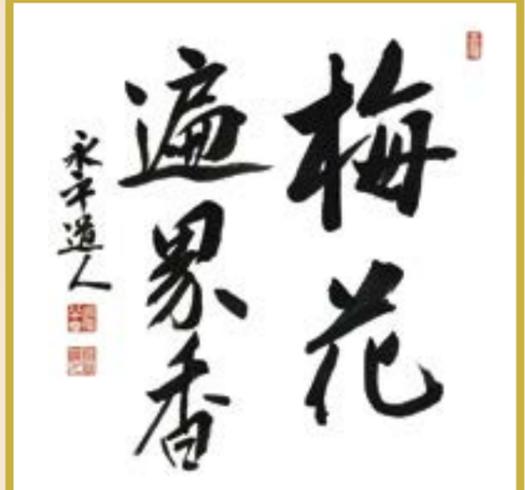
ごあいさつ

曹洞宗 管長 南澤道人
大本山永平寺貫首

乙巳きのとみの新年を迎えました。梅花流詠讃歌に親しまれておいでの皆さまが、新春の陽光に包まれておられますように、と願いつつ新年の御祝詞を申し上げます。

新年明けましておめでと御座います。新年が皆さまにとって新春の陽光に包まれた如く、光明に抱かれたような年となりますことを念じております。

さて、年頭の一語として認めましたのは「梅花遍界に香る」です。清楚な梅花の香りが世界の隅々まで行き届きますように、との意味であります。梅花



とは申し上げるまでもなく梅花流詠讃歌であり、一仏両祖の御教えであります。梅花流詠讃歌は既に国境を超え、日系の人々を中心に多くの方々に広がり、その旋律と共に一仏両祖の御教えが文化となって異国に根付いております。

また、本年五月には「終戦八〇周年平和祈念法要」を併修して「令和七年度梅花流全国奉詠大会」が沖縄アリーナを会場に開催されます。あの大战の終盤に在って沖縄は悲惨を極めました。梅花流詠讃歌が彼の地で尊命を落とされた方々には鎮魂を、今在る方々には

安らぎをもたらす布施行となりましますことを祈念して止みません。梅花流詠讃歌へのご精進は、人々に癒やしと安らぎを齎します。どうか、ご精励下さい。合掌

誠心にお唱えする

伝道部長 高橋英寛

昨年十月に伝道部長を拝命致しました高橋英寛でございます。二年間の任期の中で、宗務所職員（梅花主事）として経験したことを活かし、今後の梅花流発展に鋭意努力してまいります。

意義のある大会となるよう、詠道課一丸となって準備を進めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



高橋英寛 (たかはし えい かん)
新潟県第一宗務所梅花主事・
学校法人梅壇学園理事長等を歴任
平成18年より曹洞宗宗務所職員
第二次服部内局で伝道部長に就任
新潟県長岡市満光寺住職

全国大会
ロゴ決まる!

令和七年度梅花流全国奉詠大会のロゴが決定しました。開催地の沖縄にちなみ、海や南国、シーサー等をモチーフにした爽やかなデザインとなった。記念バッジをはじめ、各種参加記念品にこのロゴが使用される予定だ。



特集 城満寺歌碑除幕式

じょうまんじ

令和六年十一月十二日、徳島県海部郡城満寺にて、梅花流歌碑除幕式が厳修された。「太祖常済大師瑩山禅師修行御和讃(菩提)」の四番に、瑩山禅師さまが城満寺で住職を務めていた際にお授戒を行なったことが詠われており、また令和六年が太祖瑩山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌にあたることを記念して、このたび歌碑が建立された。式は徳島県宗務所管内の寺院住職をはじめとして、徳島県の

梅花講員、北海道谷暁雲師範、宮崎県久我章稔師範、梅花流特派師範有志十三名が出席された。このほか地元の方々等を含めると、総勢一五〇名がこの日の式に出席された。

式は午前十時に開始され、導師を務めた高橋英寛伝道部長が参加者に向けて挨拶を行ない、「この度の歌碑建立で、より多くの方に梅花流に関心を持っていただきたい」と今回の歌碑建立の思いを語った。

挨拶が終わると、除幕が行なわれた。徳島県の梅花講員により幕がとられると、会場からは感嘆の声と拍手が起こった。今回の歌碑を建立するにあたり、大本山總持寺石附周行禅師さまにご揮毫をいただき、また徳島県國分寺様より徳島県の銘石(青石)をご寄贈いただいた。

除幕ののち、徳島県の千光寺梅花講浜内幸子様、江音寺梅花講八幡節子様、洞雲寺梅花講谷口美恵子様に「お誓い」をお勤めいただいた。

その後大梵鐘が五回鳴り響いたのを合図に、法要が始まった。法要においては徳島県の千光寺梅花講、江音寺梅花講、洞雲寺梅花講の三つの梅花講の講員の皆さまにより、太祖常済大師瑩山禅師修行御和讃(菩提)、慶祝御和讃が唱えられた。三方を山に囲まれた城満寺の境内に、荘厳な詠唱が響き渡った。また、城満寺の近隣にある、高野山金剛講徳島穴喰支部の講員の皆さまにもお越しいただいた。金剛流は高野山真言宗の流派であり、このような記念すべき式典にお越しいただき、交流を深める機会ができたのは大変ありがたいことであった。



梅花講員皆さまでお唱え



高野山金剛講徳島穴喰支部の皆さまのお唱え



維那は愛媛県上本英昭師範が務めた

法要が終わった後、城満寺住職田村航也老師によるご挨拶が行なわれた。田村老師は「歌碑の建立を機に、城満寺に訪れていただき、ご縁を結んでいただきたい。」と述べられた。法要が終わると、今回ご協力いただいた皆さまで記念撮影を行なった。今回の歌碑建立がきっかけで、数多くの方々と互いにご縁を深めることができた。ちなみに、歌碑のすぐ後ろの山には瑩山禅師さまの御遺骨が祀られている御霊塔がある。御霊塔の方を見



除幕式のために多くの方が集まった

上げて歌碑を参拝することによって、山に登るのが難しいという方でも歌碑を通して拜むことができるため、山のふもとにこのたび建立された次第である。
ぜひとも多くの方々に足を運んでいただきたい。



歌碑の前で記念撮影



今回建立された歌碑

大本山總持寺で「梅花講員の集い」開催

令和六年十月十八日、大本山總持寺で「太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌慶讚 瑩山禪師さまを慶讚する梅花講員の集い」が開催された。全国各地で「スマイルアゲイン梅花のつどい」を開催している北野良昭正伝師範が全国の梅花講に呼びかけ、約三六〇名が参加された。

冒頭は梅花講員のみなさまのお唱えで、石附周行禪師さまをお迎えした。「瑩山禪師七〇〇回大遠忌の年に、多くの梅花講員の皆様のお声でお参りいただける、こんなにうれしいことではないと思います。」とお話をいただいた。

その後、北野師範による講習や、大本山總持寺祖院監院関口道潤老師せきぐちみちゆんによる法話が行なわれた。参加された講員の方々は、大祖堂で梅花流詠讚歌を唱えることができた。



北野良昭正伝師範

なお、このたびの集いの参加者による義援金が、大本山總持寺祖院の復旧支援として寄贈された。



参加された皆さまでのお唱え



集いの様子



講師さんインタビュー

島根県知足寺梅花講の木村悦子きむら えつこさんにインタビューを行なった。木村さんは御年九十六歳。二〇一七年には正詠教範に補命され、日々梅花流詠讚歌に取り組まれている。また、水泳が好きで、大会において世界記録を持つなど、精力的に活動をされている。そんな木村さんに梅花流詠讚歌に対する思いを語っていただいた。

—梅花流詠讚歌を始めたきっかけを教えてください。

○私の母が檀家の方をお誘いし、月二回の練習を方丈さんにお願ひして始めたのがきっかけです。私も誘ってもらい、はじめは親孝行のつもりで仲間に入れてもらいましたが、練習するにつれて何かひかれるものがあり、次第に熱心に練習するようになりました。

—日々のお唱えに關しまして、気を付けていることや気づきがありましたら教えてください。

○毎日一曲ずつ仏前でお唱えしています。それが習慣となり、鈴鉦をつけると拍も落ち着き、また主として曲想を考え、アヤ・ツヤ・イ口等を心掛けるようにしています。

—梅花流詠讚歌を通じて、思い出に残る出会い等ありますか。

○八十七歳のときから、島根県明元寺もりやま しょうこう森山祐光師範に教えてもらうようになり、熱心な指導を受けてきました。その結果、平成二十九年に正詠教範を補命していただき、また、お唱えもさることながら歌詞の意味の判らないことも多くあったため、月に一度の個人指導をお願いし、勉強を続けることができたようにになりました。指導の日が楽しみになりました。まだまだ学びたいことがあります。先生のご冥福をお祈りいたしますとともに、感謝の意を述べさせていただきます。

—木村さんにとって、梅花流の面白いところはどこだった点にありますか。

○私にとって梅花は心の安らぐ拠り所です。梅花の意味をしっかり把握しそれを楽譜にのせてお唱えすること、皆さんと鈴鉦をあわせてお唱えすること、御詠歌を通して心の輪が出来るよるこびがあることです。

木村さん、ありがとうございました。今後のご活躍も期待しております。

駒大シエルティーズ苦小牧高等学校吹奏楽局 Sheltiesによる奉納演奏会

令和六年十二月十六日、神奈川県鶴見区の本山總持寺大祖堂にて、駒澤大学附属苦小牧高等学校吹奏楽局「Shelties」による奉納演奏会が開催され、太祖瑩山紹瑾しょうきん師七〇〇回大遠忌記念事業の一環として、瑩山しょうざん師さまへ演奏を奉納した。

演奏会では八〇人以上のメンバーが、三宝御和讃を吹奏楽曲にアレンジして披露した。本格的フルマーチングバンドによる荘厳な御和讃が大祖堂いっばいに響きわたり、集まったおよそ三〇〇人の観客から、大きな拍手や歓声が送られた。

演奏会では、石附周行いしづき ちゅうこう禅師さまも、生徒のみなさんの活気ある演奏を楽しく鑑賞された。

なお、駒澤大学附属苦小牧高等学校吹奏楽局は、過去に大本山永平寺山門でも演奏会を行なっている。



大本山總持寺大祖堂で演奏

訂正・お詫び

梅花新聞五〇号に誤表記がありました。謹んでお詫び申し上げます。左記の通り訂正いたします。

一頁上段中九行目
誤 眼睛打失 正 眼睛打失

一頁上段十二行目
誤 迦 正 迦

曹洞宗梅花流
梅花法具のお求めは
曹洞宗ブックセンターへ

梅花法具・梅花服・梅花トレーナーなどの梅花に関するお品物は……曹洞宗ブックセンターでお取り扱いしています

ご注文は…曹洞宗ブックセンターまで
0120-498-971
FAX 03-3768-3561 (平日 9:00 ~ 17:00)